

## あんな人、こんな人、どんな人？

とある研修日、初めてうちに来た緊張した面持ちのSさんが、椅子に腰掛けて書類に記入していました。すると、前にいた事務局長がクスクスと笑いをこらえていたのです。「何で笑ってるの？」と聞いてみると、「Sさん、靴はいたまま上がってる...」

・・・(爆)(爆)(爆)確かにうちは車椅子世帯だけど、フツウ玄関で靴は脱ぐでしょう...ココは日本だぞぉー！！(汗)

### 利用者MARUちゃんのちょっと思うところ

新しいヘルパーさん達に代わって、約2ヶ月が過ぎました。最初はなることかと思っただけど、みなさん本当に良くがんばってくれて、感謝しています。

大体の仕事はもう覚えてくれていると思うのですが、まだ覚えきれてない人も中にはいるでしょう。週に1,2回しか入れない人もいたり個人差はあると思いますが、利用者として思うことがあります。





わたし へるばー まいにち き こと あ まえ  
 私にとっては、ヘルパーさんが毎日来てくれる事がごく当たり前であり、そ  
 のおかげで毎日平凡に暮らせます。その平凡なごくフツウな毎日の中では、も  
 ちろん、洗濯・掃除をしたり、お風呂に入ったり、トイレもします。その毎日大体  
 決まった作業のやり方や手順をそのたびに説明するのは、利用者からしてみれ  
 ば、とても大変でストレスのたまる作業だということを常に頭においていても  
 らいたいと思います。何故って...??それは先ほどから繰り返すように『平凡な  
 ごくフツウな毎日』だからです。自分でトイレやお風呂に入れる人だって、い  
 ちいちそのたびに口に出して説明しながら行動するのは、ストレスがたまると  
 おも  
 思いませんか？

すべてのことにテキパキ気を利かせて動いてほしいわけじゃありません。そ  
 うされると逆に『自分らしい』生活を作れなくなってしまうます。ただ、日常的  
 な作業はしっかり覚えて、利用者さんのペースをしっかりとつかみ、如何に利用者  
 さんが『平凡なごくフツウな毎日』を過ごせるかを考えてみて欲しいと思いま  
 す。それができれば、「介助」という一見不自然な行為でも、お互いもうちょっ  
 と自然に付き合えるかもしれません。

